



紙上ギャラリー



コルバチェ山を望む (I)

ミラノから車で約130キロ、スイスのサンモリッツです。宿泊したホテル「ジアルディーノ マウンテン」で朝の散歩中に見た光景。ホテルの標高1850m。正面の山はコルバチェ3303m、ロープウェイで展望台まで登れます。8月というのに氷河がありました。

画／西尾 輝光 (東灘区)

神戸医師協の活用のススメ

常務理事 岡田 幸也

医師が病院勤務を辞めて独立することは、雛の巣立ちと同じです。病院という外敵から守られた塀の中から外界へ飛び出したからには、それまでのように、ただ目先の診療を行って行けば良いのではなく、事業主としての業務や一般社会人としての努めなど診療以外の雑務が一気に増えます。ところが、これを面倒がって手抜きをしたり、油断をしていると、金銭的にも精神的にも思いもかけない深いダメージを受ける可能性があります。

そんな開業医の多岐にわたるリスクを管理するために、先人たちは幾つもの組織を作り幾重にもバリアーを築いてきました。その最も内側の層は地区医師会です。医師会は保険診療に関する情報を提供してくれるばかりか医事紛争の対応に至るまで、日常診療の問題点に幅広く対応してくれる互助組織として機能しています。次の層は医師会員が目的に合わせて組織した3組合です。つまり、医療・医薬関係の専門金融機関としての兵庫県医療信用組合、医師本人のみならず医薬関係者すべての健康保険をカバーしてくれる兵庫県医師国民健康保険組合、そして薬品・医療器から保険やリネンに至るまで幅広く医療活動を直接的・間接的にサポートしてくれる医師協同組合です。

ところで、兵庫県下には、兵庫県医師協同組合、神戸医師協同組合、そして姫路医師協同組合の3組合が

存在します。ただ、兵庫県医師協同組合と姫路医師協同組合は諸会費等の集金業務や生命保険業務、損害保険代理店業務など保険を中心とした業務にとどまっています。その点、神戸医師協同組合は薬品、医療器、保険、リネン、医師協カードに至るまで幅広く事業を展開し、組合員の痒いところに手が届く活動を行っています。その定款にうたう目的は「組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図る」なのです。組合の名称こそ発祥地にちなんで神戸と付いていますが、兵庫県医師会の会員であれば、県下の地区を問わずに組合員となることが出来てその恩恵を受けていただけます。

神戸医師協同組合の最近の売れ筋は、信頼のおける後発医薬品、医療材料を分割購入できるカタログ販売、利用便利な医師協カード、万が一に備える各種保険、細かいところまで行き届く開業サポート等ですが、組合員の遺産相続や葬祭関係に至る最後の最後にまでサービスを提供できるよう取り組んでいます。全職員は組合員との信頼関係を最重要項目と位置付け日々の営業活動を行っています。こんな神戸医師協同組合をすべての医師会員が利用しない手はないと思いますが、いかがなものでしょう。